



Okosiyasu (Welcome) to energetic summer season of August and September in Kyoto! This paper features on Okazaki area, Kyoto and especially on Jinguichi-Syotengai (Jinguichi shopping area).

I would like to introduce several unique way to enjoy summer in Kyoto. Avoid spending long time under the sun in the morning and the afternoon! To avoid extreme heat, visit cafes and try out "Kakigouri (Japanese-style shaved

ice topped with flavored syrup)". In the evening, enjoy shopping or firework shows.

Summer is the most energetic, bright, and refreshing season in Kyoto! We hope you to visit various places, eat delicious food, enjoy unique experiences, and have wonderful time in this beautiful city. (Nakatsuji)



撮影 / 山下良太
「般若」

最初のコラムということで緊張しています。第1回担当フジワラです。テーマは「残暑」なのですが、暑い日が続いていますね。蝉も元気に鳴いています。鈴虫が鳴くのはまだ先のようです。わたしは元々京都の人間ではないので、初めて京都で夏を過ごしたとき、想像をはるかに超えるジメジメ感に辟易してしまいました。恐るべし、夏の京都。堪え難き高湿度。

しかし、そんなジメジメした夏の京都には、それを打破する避暑スポットも多いですよ。水場、木陰、落ち着いたお寺など、想像するだけで涼しくなります。

岡崎地区には「琵琶湖疏水」という涼しげなスポットがあります。京都を舞台にした物語を書く小説家として知られる森見登美彦氏は、作中によく琵琶湖疏水を登場させています。わたしも彼の小説で琵琶湖疏水を知りました。フリー百科事典でおなじみWikipediaでは「琵琶湖の湖水を京都市へ流すために作られた水路（疏水）である。」とあまりにも簡単すぎる説明がなされている琵琶湖疏水ですが実用性だけでなく、観光資源としても要チェックです。特に、南禅寺境内にある水路閣は、京都のイメージとして定着していますね。しかしこの水路閣、建設当時は「古都のイメージを壊す」など反対する意見もあったみたいです。なんでもあの有名な福沢諭吉も反対派だったとか。現在の感覚で考えると、和風の木造建築と洋風の煉瓦の融合は、とても素敵な計画だと思ってしまうのですが…当時はそう簡単にはいかなかったみたいですね。

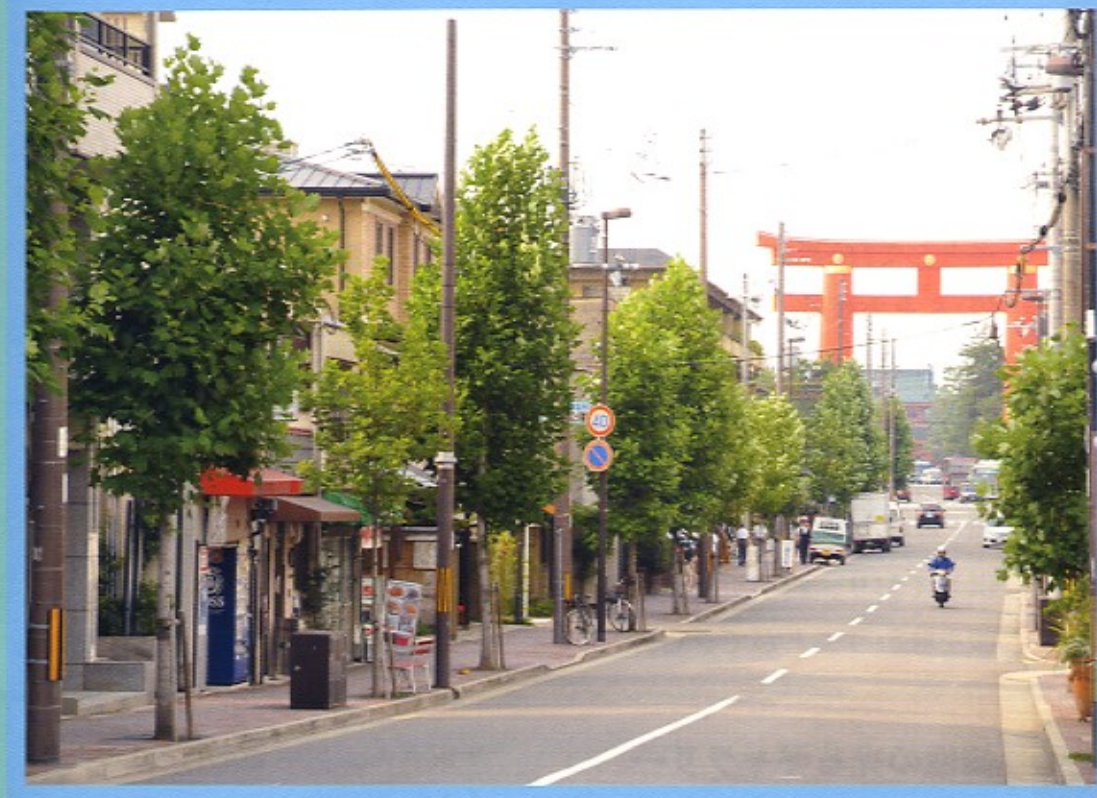
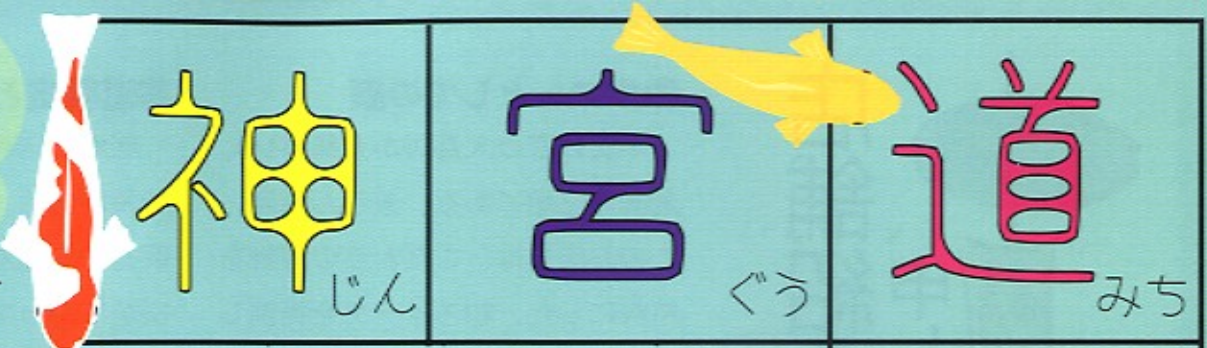
ただ単に風景を楽しむだけでなく、どんな人物がこの場所についてどんなことを考え、どんなことを感じたのか思いを馳せる。今年の残暑は暑さも忘れ、京都の今昔に歩み寄るような、そんな時間を過ごしてはいかがでしょうか。(フジワラ)

今月の一枚 八月・九月

毎月、立命館大学写真部のメンバーが岡崎地区にて撮影した一枚をお届けします。

ご意見はこちらまで jingu@like-minded.jp

8月9月創刊号



企画・発行：神宮道商店街組合
編集：立命館大学 Rits Jins

神宮道商店街とは？

神宮道商店街とは平安神宮の大鳥居を望み、岡崎地域の南側に位置する南北に延びる商店街です。京都特有の住所の表し方で知られる「上ル下ル」を使った「神宮道上がる下がる」が愛称です。画廊、骨董・古美術店、飲食店、土産物店などが集まっており、10月には「粟田祭」や京都三大祭の一つである「時代祭」の行列で賑わいます。近辺には平安神宮や南禅寺、美術館や動物園など、観光施設が多くあります。綺麗な舗道は広くて歩きやすく、落ち着いた雰囲気の中で京都を満喫できる商店街です。

Rits Jins について

お初にお目にかかります。私たち Rits Jins (りつじんず) は、神宮道商店街組合発行の「神宮道帖」を創るために集まった、学部も回生も違う9名の立命館大学生からなっています。これから神宮道帖の紙面で毎月、神宮道商店街の小さなほんやりから大きなほっこりまで紹介していきます。どうぞ、末永くお付き合いください。



店舗紹介

申し上げます。

茶ろん 瑞庵
(さろんずいあん)

体験型・純和風喫茶。
今日に息づく伝統を愉しむ。

和カフェとしての顔

平安神宮の大鳥居から徒歩1分。最高の立地にある、茶ろん瑞庵。このお店では、こだわりの地物を原料にした、和スイーツを提供している。二条・柳櫻園のまるやかな苦みの飲みやすい抹茶は、それぞれのスイーツにぴったり。オーナーである表千家・大室瑞恵(おおむろ みずえ)さんはオススめの商品として『抹茶白玉あんみつ(1000円)』をあげる。黒蜜の優しい甘さとふんわり広がる抹茶寒天のほろ苦さが絶妙な一品だ。また、夏季は豊富な種類のかき氷、冬季は京都・舞鶴の麴を使用した甘酒を提供しており、四季折々の京都の甘味を味わうことができる。

茶道教室としての顔

瑞庵の店内には、地下へと続く階段がある。その階段を下りると、茶釜や縁側などを備えた立派な茶室が広がっている。今年3月から始まった、茶道体験教室の場である。体験コースは2100円からあり、京料理のついたコースや、正式な作法の茶会体験まで、様々な価格帯を用意している。人気の『御室』コースの魅力は、オーナーの指導を受けながら自分でお茶を点てられることだ。敷居が高いと思われがち茶道を、なんと1回2100円で体験できる。予約は4~5日前までに、右記の電話番号へ。

こだわり

オーナー・大室さんは、母も自



分も長く茶道に携わってきた。そのことを思っ、店内に茶室を構えることを重視。そのこだわりが、地下といえど明るく日差しが差し、素敵な茶室つきの魅力的な喫茶茶を生んだ。京都観光の足休めにぜひ訪れてもらいたい。(ミヤジマ)

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町140-5
『茶ろん 瑞庵』
(075-751-8283)

↓オーナー・大室さんのオススメする抹茶白玉あんみつ



↑地下の小庭。向かいには瑞庵自慢の茶室がある。



個性の光るギャラリー

Photo Gallery Artisan KYOTOはギャラリーの多い京都でも珍しい写真専門ギャラリーとして今春神宮道沿いにオープンした。2010年の東京店オープンに次いで2店舗目となる。1階ではArtisan契約カメラマンの常設展を行っており、2階は貸しギャラリーとして開放している。他にも1日500円で店内の一角を写真の展示のために提供する『ONE DAY GALLERY』企画や写真集の販売など、個性の光るギャラリーである。

オーナーの願い

「日本でのさらなる写真文化の発展を」——そう語るのはオーナーの清永安雄さんだ。社内報制作会社の出版部出身の清永さんはカメラマンとして写真文化の国内外の相貌を目にしてきた。そこで

清永さんが感じたのは「日本人にももっと写真を楽しんでほしい」ということだった。写真を専門に扱うギャラリーをオープンさせた背景にはこうしたオーナーの強い思いがある。

Artisan KYOTOの挑戦

写真を撮る人・観る人、両者に積極的なアプローチを図っていかうとするArtisan KYOTO。店長の小谷直嗣さんはそんなアプローチを直に受けている一人だ。『写真のことはあまりよくわかりませんでした。でも今は自前のカメラを買ってよく撮りに出かけていますよ。』と人懐っこい笑顔で話してくれた。写真の持つ可能性・パワーを伝えるため、Artisan KYOTOの挑戦が今始まる。(シミズ)

Photo Gallery
Artisan KYOTO
(フォトギャラリーアルティザン京都)
写真専門ギャラリーとしての挑戦。



↑ONE DAY GALLERYの様子

〒605-0031 京都市東山区三条通
北裏白川筋東入二丁目定法寺町368-3
『Artisan KYOTO』
(075-746-2931)

神宮道商店街周辺を観光中の外国人観光客に突撃インタビューを行うコーナー。外国人の目にした『Kyoto』をお楽しみください!

Okosiyasu! Kyoto



VOL.01

お名前: Beth(ベス)さん
出身国: オーストラリア

京都を訪れるのは初めてというBethさんに声をかけしたのは、神宮道商店街の目の前・平安神宮の大鳥居前。以前京都を旅行したことがあるご家族・ご友人の紹介で旅先に京都を選んだという彼女は、初めての京都を「Amazing! (素晴らしい)」と語った。

前日に二条城や祇園といった京都の主要観光スポットを巡った彼女は、中でも北野天満宮の縁日(毎月25日開催)を気に入ったという。「ぜひ、秋や春など他の季節のKyotoも訪れてみたいわ」とキラキラの笑顔を見せてくれた。